

みなと・新橋

今・むかし新聞

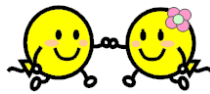
第 8 号

令和元年 6月

語の継ぐ

東京オリンピック・パラリンピック

今回は「語の継ぐ」の皆さんが、一九六四年に日本で初めて開催された東京オリンピック・パラリンピックについて語って頂きます。



「東京オリンピック一九六四年十月十日快晴」

高橋 邦子

「世界は一つ」を合言葉に、敗戦国日本が晴れがましくオリンピック開催の朝を迎えました。一万二千個の風船が放たれ、自衛隊の航空機が頭上を飛び、青空に煙で五輪を描き、国民の九割がテレビ観戦、経済成長率GDPを上げるシンボル電化製品、都知事は東龍太郎、東京都は数千億円の新幹線投資、下水道の刷新、四十キロの地下鉄敷設、百キロの高速道路、羽田空港と都心部二十一キロのモノレール、丹下健三設計国立第一体育館、計器はオメガからセイコーへ、国立競技場の階段を聖火を掲げ聖火台に昇って行くランナー坂井義則選手――一九四五年八月六日エノラ・ゲイが広島に原爆投下――その日に生まれた彼が聖火台に火を灯した。

前回のローマ大会の際は殆どビデオテープとフィルムに収めたものを日本に空輸して放送されたが、今回はテレビ視聴した人が国民の延べ97・3%、最も高かったのは女子バレーボール85%でした。既に東洋の魔女として恐れられた日紡貝塚の選手は、午前中働き、午後は鬼の大松監督指導のもと深夜まで練習、一九六二年の世界選手権でソ連チームを相手に優勝したのに引き続いての快挙だった。アメリカは三十六個の金メダル、短距離ホブ・ハイズ百メートルを



十秒切る、ボクシングのジョー・フレージャー、水泳のドン・シヨランダーは四つの金メダルを獲得

嘉納治五郎の日本柔道は、神永昭夫対オランダのヘーシンク戦で、日本柔道は敗退に終

わる。マフソン、素足のランナーエチオピアのアベベが優勝（晩年は交通事故で車椅子に）、日本の円谷幸吉は三位（日本国民に言い訳の出来ない失敗をした、次のオリンピックに日の丸を掲げることで名誉挽回をしなければとトレーニングしたが慢性腰痛を抱え、一九六八年自殺）。

閉会式は想定外の生中継で実況は土門アナ、四百百人の選手が、国境を越え宗教を越えた美しい姿があります。このような美しい姿を見たことはありません。心の鼓動を言葉に。

「一九六四年第十八回東京オリンピックの思い出」

中嶋 弘

「本日の主役はこの晴天です。」開口一番NHKのアナウンサーの言葉です。運動嫌いの私は、あまり覚えていないのですが、市川昆監督のポスター、陸上の短距離のスタート直後の迫力ある映像が忘れられません。

同年の年末に、勤務先の貿易会社を退職する予定でしたので、事務の引継ぎやら何やらで、とてもオリンピックどころではありませんでした。

外務省の方が、小学生の教科書を片手に招致のスピーチをしました。新橋の第一京浜国道のそばに住んでいましたが、道路工事の埃のためか、次男が気管支喘息になり、大人になってもまだ治りません。

日本の鉄道はイギリスを模範にしたため、一・〇六七メートルの狭軌でスピードが出せません。そこで新幹線は世界標準の一・四三五メートルにしてスピードが出せるようにしました。

爾後世界各国で鉄道輸送が見直され、フランスのTGVや各国で



超特急列車が走るようになったのは、オリンピックの置土産と云っても過言では無いと思います。

「東京オリンピックに思う」

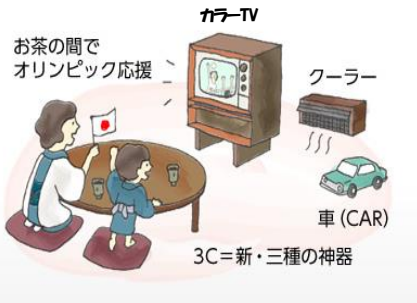
中嶋 房子

昭和三十三年に私共は結婚致し、東新橋一丁目一番十一号に住んでおりました。新橋駅と汐留駅の間で、二十四時間、車の通行の激しい所、二人の男子の育児、老いた祖父母の介護等と忙しい日々でした。都営浅草線地下鉄の工事（オリンピックに目がけて）新幹線ひかり、このま号に東京はモーレッツ発展に湧いておりました。そんな時、老いた父が「ふと」戦前のまぼろしのオリンピックの話をしてくれました。父は、新しいことが大好きで、家族でオリンピックを見に行こうと券を注文したとの事でした。

当時、宝塚劇場での高峰秀子、エノケン出演のミュージカル桃太郎等、新しい楽しい戦前の平和な良き時代を話してくれました。桜田小学校高学年の兄が、天覧試合に選ばれた事など懐かしそくに……。昭和十六年十二月八日の開戦、まぼろしのオリンピックとなりました。（昭和十五年東京オリンピック返上）

昭和三十九年のオリンピックは日本の復興と平行して、文部省から特別に学校の体育強化指導等はなかったとの事、中学体育教員の友達は、話してくれました。体育に関する価値観が、現在より低かったように思えます。

オリンピックが始まり、テレビで、バレーボール、水泳、マラソン等中継に沸いた日々でした。



お茶の間にオリンピック応援

3C=新・三種の神器

その二ニュースの中で、若い皇太子ご夫妻が、パラリンピックの開会式や競技場での観覧等のお姿が心に残っております。当事、「なるちゃん憲法」とか、皇室も新しい育児に変わり話題になりました。

パラリンピックに積極的、協力的との二ニュースに時代の変化を感じ、明るい希望、開かれた日本に思えました。

「オリンピックの頃、そして今」

池田 林太郎

その時、赤いブレザーを着て堂々と行進する日本選手団、青空に白く画かれたオリンピックマークを見て、私は戦後の復興ぶりを実感し、誇りと自信をあたえられました。

また、体操の遠藤選手、重量挙げの三宅選手の金メダル等々、それに、女子バレーのソ連との決勝戦にはテレビに釘付けになり熱狂したものです。

一方、銀座を取り囲む川は埋め立てられて高速道路となり、古い建物は壊されて近代的なビルに衣替えしました。

直前には、東京新大阪を四時間で結ぶ新幹線が開通しました。

その頃、私は大阪の女性（妻との縁があり、寝台列車「明星」を活用しシートをしていたので便利になり嬉しく思いました。その後、東京の歴史的な情緒は徐々に失われ、小さなポットで都内の河川を巡れる楽しみは無くなりました。

当時、鬼の大松といわれた大松監督の「俺についてこい」が流行語となると共に、それが社内研修の「地獄の特訓」を企画する原因の一つとなり、モータリ社員を多く生み出しました。私もその一人であり、地元の町と家庭を顧みることが少なかった人生を反省し、退職後は町会のボランティアと妻との時間を大切にするようにと心掛けています。今日この頃です。



「東京オリンピック一九六四年」

井上 繁

一九六四年（昭和三十九年）十月十日、日本の全国民が待ちに待った東京オリンピックが開催され、その模様はNHKからカラーテレビで放映されました。当時普通の家庭にあったのは白黒テレビで、カラーテレビを持っている家は殆どありませんでした。当然我が家も白黒テレビ。

家のすぐ近くに某家電メーカーのショールームがあり、そこに展示されていたカラーテレビが受像機で、オリンピック開会式を受像公開することが予告されていました。私は、開会式の時間より早めにそこへ出かけて行ったのですが、既に多くの人が来てい

ました。程なくして、放送が始まる。見に来ている人はテレビの画面を食いつくように入っている。点火台への聖火の点火や、各国選手団の入場行進などの場面もさすがカラー、白黒とは迫力が違う。セシモニーが終わりに差し掛かった頃、画面に映し出されたのは自衛隊機による空中デモンストレーション。五機それぞれが色の違う煙を吐き出し、空中に五輪のマークを描き始めたのだ。「外へ出ればじかに見えるかも」と言った人がいて、その声をきっかけに、殆どの人が外へ出た。無論私も。そして空を見上げると、見事な五色の輪が描かれつつあった。



「一九六四年の東京オリンピックの思い出」

細矢 隆 久

戦争に負けてドイツと共にロンドンオリンピックに参加させてもらえなかった日本が、懸命に国力を回復して念願の東京でオリンピックが開催される事こんなに嬉しく事は思ったことがありませんでした。

ブルーインパルスが描く五輪の輪、坂井選手の聖火台での点火、重畳挙げの三宅選手、東洋の魔女達の金メダルポイント、マラソンのアベベ、田谷選手、負けるはずがないと思っていた柔道の神永選手のまさかの敗戦等あっと言う間の十五日間でした。数多くの感動を味わいましたが、その中でも一番は閉会式の選手の入場行進でした。



ラグビーのノーサイドのように国も人種も無く、みんなが一人一人のアスリートとして肩を組み手を取り合って、嬉しそうにスタンドの観衆に手を振って行進して行く様は、ようやく日本が世界に認められ、日本の戦後が終わりに近づいて来たのだと思っただけです。あれから五十四年がたって、もう一度東京でオリンピックの大会が見られることになって、長生きして来て本当に良かったと思います。

日本選手団の健闘を心から願っております。

「私の青春 心に残る東京オリンピック」

山口 和 良

一九四〇年（昭和十六年）、日本がオリンピックを返上して以来、二十四年ぶりの開催、平和の願いが込められた火が、聖地ギリシャ・オリンピアから日本へ、日本はあの忌まわしい原爆投下を受け、そして敗戦へと永い年月が過ぎ、オリンピックの火は被爆地の広島・長崎を通り、全国各地を回り、国立競技場の聖火台に点火され赤々と燃え上がった。



君が代が流れ、天皇陛下の開会宣言、真に平和を願う日本国民が実現させた意義は大きい。日本は敗戦国としてある期間オリンピック参加が認められず、日本開催は国民の願いであり、夢でした。

日本選手の活躍は、宿敵ソ連を撃破し金メダルを獲得した日本女子バレーボールや男子、体操団体の金、重畳上げ三宅選手の金、柔道での活躍、オリンピックの華マラソンのアベベ選手の二連覇、そして田谷選手の激走。

日本選手の活躍があり、十五日間の日程を終え、閉会式の各国の選手達が他国の選手と肩を組み、手を繋いで行進は、国・民族を越えすばらしいと感動し、記憶に残るオリンピックでした。

「楽しいな東京オリンピック」

武 恒 雄

前回のオリンピックの頃は、働き盛り遊び盛りの真最中、無関心のまま記憶に残ることもない。その上、高二の体操時間に百メートル走のタイム測定があり、十六秒と結果が出て以後は、運動とは距離を置くことにしていた。とは言ってものもう随分昔のこと、最近では外出の時、五十メートル位先の停留所まで、次々と追い抜かれるのが口惜しくて、ついムキになり足をひきずりながら座席の確保のために頑張る爺さんになっている。

半世紀を経て再びやってくるオリンピック。世界中から選りすぐりのアスリート達がやって来て、千分の一秒差を競い合ったり、取っ組み合いをしたり、チームを組んでボールゲー



ムをしたり、熱戦を繰り広げるだろうし、またスタンドでは大応援団が国旗を振り廻す声援の大喝など、華やかな様子が目に見えるようだ。楽しみになってきた。

「東京オリンピックの不安」

神 代 忠 男

今回の東京オリンピックについては、次の四点により大変危惧しています。

①地球温暖化により日本も、昨夏のように、いや一年先はもっともっと熱くなると思われ、選手見物者に多くの熱中症を出すのでは、と心配です。昔のオリンピックのように気候の良い時期に行うべきです。



②右の件は、アメリカ等のテレビ放映のためと言われているが、全てロス五輪以来の商業主義により、オリンピック自体が毒されています。

③そもそもオリンピックは、アテネ以来、アマチュアの祭典の筈だったのに、今はプロとして報酬を得て生活しているアスリートを入れている、これは当初の目的からはずれています。

④最近目立つように、アスリート自体は清く正しい若者が殆ど、それが〇〇協会というスポーツ団体になると、利権の巢窟となる事が多い。

前のオリンピックの時、当時の事務総長田畑政治氏との縁で、末端で少し関係した私は、その時もスポーツ界の利権構造の若干を目にした記憶があるけれど、田端氏の清廉、重厚な人柄により、余り表面には出ず、先ず先ず戦後の日本の復興に大いに貢献しました。

併し、今回は当初より問題が多く今の日本及び東京に良い結果を期待し得ないばかりか、何か悪い事件等の興る心配は、果たして私だけのものかなと思うのです。無事に終わる事を願っております。

「一九六四年」

宇 和 島 常 子

「一九六四年」この一年は、我人生において最も忘れられない一年となりました。〇十一月の結婚〇十月東京オリンピック 〇十月新幹線開通 しか

も全てこの秋十月〜十一月です。

子供の頃から、両親からオリンピックは六十年に一度巡ってくる、出会えれば幸運だと教えられて来たが、我人生、結婚と同じ年に迎えられる幸せをかみしめました。



十年間勤めた会社を寿退社し、そのお祝いにとオリンピック開会式の入場券を会社よりいただきました。各国選手が入場するアーチの真上ですー坂井選手がオリンピック聖火を掲げ入場して来た時の歓声たるやすこいもので鳥肌がたちました。ここに居られる幸せを感じたものでした。

ところが私は来月に控えた結婚式の事で頭がいっぱい、本当のところオリンピックどころではありませんでした・・・が人生はじめての自国開催のオリンピック、大松監督による女子バレーの活躍、男子マラソンでエチオピア代表アベベ選手の優勝、二位でスタンドに帰って来た田谷選手への大歓声、第三コーナーで三位イギリス選手に抜かれ銅メダル・・・も世界で三位です。素晴らしい！オリンピックに酔いしれた一ヶ月でした。

十一月二日結婚、十月開通した新幹線で、皆に見送られ東京駅を出発したあれから五十四年、主人共々、健康で八十代を幕進中。そして二〇二〇年に再び東京オリンピックを迎えられる幸せ。大事に大事に人生を生きたい。

「港の『語の部』」

平成十三年「生涯学習ボランティア講座」事業として、生涯学習センター内桜田小学校記念室に、新橋界隈を中心とした区民の方々が集まり「昔の港区」の学習会を行っています。

平成十五年度からは、また小学校の学習支援活動として、語りのメンバーが小学校に出向き、子どもたちにいろいろな昔の話をしています。

地域の歴史や暮らし、また戦争の貴重な体験など、過去を風化させずに未来へ語り継ぐことが大切であると考えているからです。ぜひ、興味のある方は、ばーん「語の部」担当までご連絡ください。

発行・問合せ
住所 〒一〇五〇〇〇四 東京都港区新橋三十一番三
電話 03-3431-1606 FAX 03-3431-1619
公益財団法人港区スポーツふれあい文化健康財団
港区立生涯学習センター (Toho-2)